



1.2.3. 現在はイタリアのプロバレーボールリーグ、セリエAのパワーバレー・ミラノに所属。2020年9月に行われた開幕戦では、日本人初のセリエA通算1000得点を達成した。

“やらなかった後悔” だけはしたくない

遡

れば1964年、東京五輪を制し、東洋の魔女と呼ばれた女子バレー日本代表。72年にはミュンヘン五輪で男子バレー日本代表が金メダルを獲得。かつて、お家芸と呼ばれた日本バレーも長きに渡り、低迷が続く現状だ。だが、ご存じだろうか。そんな日本男子バレーボール界で、世界と堂々渡り合う選手がいる。世界

最高峰リーグと称されるイタリア、セリエAでプレーする唯一の日本人、いやアジア人。それが石川祐希選手だ。

愛知・星城高校ではインターハイ、国体、春高と主要タイトルを2年連続ですべて制し、前人未踏の「六冠」を達成。当時は「大学に進み、卒業後は日本のVリーグでプレーすると思っていた」とい

う石川選手に転機が訪れたのは2014年。中央大学に進学し、日本代表にも初選出されたこの年、イタリアの強豪クラブ、モデナからオファーが舞い込んだ。

当時からイタリアはバレーボールが強い国と認識はしていた。とはいえ各クラブまでは知らなかったそうだが、その誘いに即答。

『世界のトップレベルに挑戦したい』という強い思いで、イタリ

ア行きを決断しました」

イタリア代表はもちろん、ブラジルやアメリカなど、まさに世界の代表選手がプレーし、高さ、パワー、スピード、すべてが世界トップレベル。白熱した攻防を見るべく、こどもからお年寄りまで訪れる会場は常に満員で、1プレーごとに大歓声や大ブーイングが鳴り響く。日本では味わえない景色や興奮。「自分もこの場所で戦いたい」と必然的に石川選手の視野は世界へ向けられた。

大学卒業後、プロとなりイタリアへ。これまで5シーズンをプレーし、着実にステップアップしてきた石川選手が、世界が大きく変化した今季選んだのは、変わらずイタリアでプレーすることだった。

「見えない未来への不安もありますが、目指すのは『世界のトップ』。それは変わりませんし、世界のトッププレーヤーに近づける可能性が少しでもあるなら、挑戦をやめたくない。もっと強くなりたいです」

昨季はシーズン終盤にリーグが



中止となり悔しい思いをした。

「バレーボールができること、ありがたさを改めて感じました。だからこそ、いつも感謝の気持ちを忘れずに、観てくださる方に元氣や勇気を届けたいです」

世界一への挑戦。その行方を見届ける価値が、十分にあるはずだ。

“感謝の気持ちを忘れずに”

挑戦の先に目指すのは、

世界トッププレーヤー。

かつては日本のお家芸と呼ばれたバレーボールだが、国際大会で表彰台に立つことは、長年達成されていない。日本を飛び出し、世界の最高峰リーグで戦う石川祐希選手にお話を伺った。

石川 祐希

いしかわ・ゆうき 1995年愛知県生まれ。星城高校在学中、史上初の2年連続3冠を達成。2014年中央大学へ入学、当時、最年少で日本代表に選出。同年、イタリア・セリエAの強豪クラブ「モデナ・バレー」と契約。大学卒業後、単身でイタリアへわたり、プロ選手としてキャリアを積む。現在は、「パワーバレー・ミラノ」に所属。



photo:
©Powervolley Milano
text:Yuko Tanaka